

## 平成 26 年度まちづくり座談会における質問・要望事項と回答

■荒砥地区：7月2日（水）午後7時30分～9時 参加者数 59人

Q. 町の産業について、かつてGDPを引っばってきたのは第2次産業の製造業であった。第2次産業の今後の発展に向けての町の意向が薄いように思う。付加価値をつけて第2次産業を伸ばすにはどうしていくか。

A. 製造業の生産額が下降気味なのは事実。付加価値をつけていくには、今後6次産業化にも力を入れていく必要がある。白鷹町は食品産業が少ないのでどのように起業化していくのが課題。地場産業は受注も厳しいが、町も商工会も一緒になって取引先をまわらせていただくこともある。今後は後継者の育成と技術者の養成が課題であり、持続的な発展を図っていかなければならない。

Q. 6次産業化は、現実性はあるのか。

A. 関係者が集まって知恵を出して一体的に進めていこうとしている。個人が生産したものを個人で加工して個人で販売するということはあるが、そこに雇用 が生まれるまでには、継続的な販売先を確保する等の課題がある。

Q. 庁舎等整備の説明の中で、中央公民館的などという言葉があったが、資料のイメージ図の中にはそのような建物はない。教育委員会の弱体化が進んでいる。教育委員会機能をどこに置いてどのような事業をするのか。

A. 中央公民館に代わる場については、防災センターの中に設けたい。非常時に機能する防災センターを、通常時には町民の皆さんが利用できるように、大ホールに代わるある程度の広さのスペースを整備したい。庁舎についても、会議室等は町民の皆さんにも利用してもらえればと考えている。

A. 生涯学習としての事業展開については、防災センターを利用して事業をすることも考えている。町内には文化交流施設や産業センター等もあるので有効に活用しながら生涯学習の振興に取り組んでいく。

Q. 50年前の役場庁舎の基礎工事を見ていたが、あれでは基盤が弱いのはあたりまえ。新たに整備するのは別な場所にすればよかったのではないか。

A. 庁舎の位置については、50年にわたり現在の場所にあり、定着している。地盤の問題についてはパイルを打ち込んで地盤を固め、高くはしないで2階建て程度にと考えている。

50年前も、現在の場所に整備したのにはそれなりの理由があったと思うので、現在の場所に整備したいと考えている。

Q. 少子化対策について、今の若い人は、結婚しない人が多く晩婚化。ある程度の年齢になったら結婚して家庭を持って家を守っていくという意識を持ってもらうことが大事。

A. 日本創生会議で25年後の白鷹町の人口は9000人まで減るとの試算だった。結婚適齢期の方が激減し、半分以下になるだろうとの予測。少しでも結婚が増えて子どもを産み育てられるような環境づくりに努めていく。

<新宮区長> コミュニティセンター化については、6月に各団体の代表から25人を委員に委嘱し準備委員会が設立された。今後、研修等を積んで来年度からのスタートを目指して準備を進めていく。

Q. コミュニティセンター化の準備委員会の委員は区長を始め年齢的には60歳以上の方が多いかと思うが、立ち上げのメンバーに20代30代の若手を入れて、準備段階から若い人たちと一緒に地域づくりをしてほしい。

<新宮区長> コミュニティセンターに移行するための準備委員会であり、スタートしてからも同じメンバーで進めていくことは考えていない。スタートしてからはバイタリティーある若い方々にもぜひ運営に関わってほしいと考えている。

Q. コミュニティセンター化については、以前から説明を受けており、地域の中で区長からも説明してもらっているが、なぜコミュニティセンターが必要なのかを理解するのがなかなかむずかしい。自分が説明をきいてそれを自分が地域で説明できるように、言葉を少なくして目的や効果を簡単にわかりやすくしてほしい。

A. これから周知を図るうえで今の意見を参考にさせていただき、目的や効果がわかるようなパンフレットを作成していきたい。

Q. これまでの町の総合計画と経過を踏まえてコミュニティセンターが必要なんだということ、第5次総合計画との関連をもっと強調していけば町民の皆さんもより理解しやすいのではないか。

A. 5年間の後期計画の中でコミュニティセンターの位置づけは大きい。町の拠点となる新たな庁舎と各地区の拠点となるコミュニティセンターをどのように関連づけていくか、総合計画の中でまちづくりとどう関連づけていくかを議論していく。町民の皆さんからもご意見をいただきたい。

Q. 9月に条例を改正し、6地区同時にスタートの方向で考えていると思うが、もし、どこかの地区が指定管理を受けないということになった場合、どのようなことが想定されるか

A. 来年4月からのスタートを目指して条例を改正する考えだが、各地区の進捗状況には温度差がある。どうしても体制が整わず課題もあるという地区については経過措置の中での対応してもらおうように考えている。

Q. 物事を始めようというときは、いかに理解してもらうか。みんなが同じに理解できるかどうか。人間は、理解・納得できないとなかなか行動できない。ひとつひとつ段階的な説明があった後に理解してみようということになる。

<新宮区長> 今後の会議等においても皆さんに理解してもらえるように努めたい。

Q. 3月の説明では、コミュニティセンターについての条例化に社会教育機能を廃止し、新たなコミュニティセンターの中で、社会教育・生涯学習における人づくりを担う、とあった。新たなコミュニティセンターの中で、社会教育・生涯学習をどう位置づけて人づくりに生かしていくのか。

<新宮区長> 今まで公民館で行ってきた事業はまったくしないということではない。これまでの事業も踏襲しながら、地域の課題を話し合って地域計画をつくって取り組んでいきたい。

Q. 一人ひとりが、よく理解して、自分たちで地域づくりしていこうという自覚を持って進んでいけるように時間をかけた対応が必要ではないか。町は来年4月に一斉スタートしようと早いスピードで走っている。

<新宮区長> 今後の状況をみながら、町から示されたスケジュールに沿って進めていくが、移行までにはいろんな課題が出てくる。これを地域の課題として取り上げて地域計画をつくり、トップダウンではなく相互理解・共通認識のうえで進めていく。

Q. 国道287号大瀬地内の全面通行止めにより迂回路の通行で不便である。片側通行の目途も立っていないのか。

A. 県では、現在、滑り面の水を抜く横ボーリングを行っており、その後、対策工事を行う。降雪期前には片側交互通行となるように進めたいとしているので、ご理解ご協力いただきたい。

Q. 観光開発について、パレス松風は昨年7月の豪雨でたいへんな被害があったが、国道沿

いに移転したらどうかと前から思っていた。国道 348 号はあれだけの交通量があるし、立地的にも利用しやすくなればもっと利用が増えると思う。地域発展のためにも移転したらどうか。

A. パレス松風は 2 億数千万の売上がある。経営改善にかなり努力をしているようだ。町として今後さまざまな事業を進めていく中での経費を考えたら、施設を国道沿いに移転するという方向に直に進むという結論には至らないので、意見としてお伺いする。

Q. 町民野球場・ソフトボール場でさまざまな大会が開催されており、先日も中体連が行われていたが、応援の保護者たちが内野席に我が物顔でテントを張っていた。テントを張られると一般の観客は見えなくなる。暑さ対策だとすれば、周りに迷惑にならないように日傘を差す等にすべきである。テントを張らないようにしてもらいたい。

A. 周りの観客に迷惑にならないようにするのがマナーであるので、気をつけてもらうよう学校に呼びかけていく。

A. 町民野球場・ソフトボール場・東陽の里グラウンドでのテントの使用については、中学校・高校、それぞれの体育連盟に、また、それぞれの協会に、お互いに迷惑にならない観戦をしてもらうよう検討してほしいと要請していきたい。